

<概要/Course Content Summary >

Active Book Dialogue の手法を主に使いながら、本を読み、理解を共有し、議論をする。3 年次演習と一体的に授業運営を行う。

<到達目標/Goals,Aims >

学生が、学術文献の精読、一般書の速読など、対象や目的に応じた、多様な読書の仕方を習得し、また理解を共有するための技法を磨き、議論を通じて視野と想像力の幅を広げることができるようになる。さらにリーディング・グループを自ら組織することができるようになる。

<授業計画/Schedule >

(実施回 / (内容/Contents)

(授業時間外の学習/Assignments)

Week)

1	導入	
2	Active Book Dialogue の手法で本を読み、理解を共有し、議論する。	
3	Active Book Dialogue の手法で本を読み、理解を共有し、議論する。	前回の振り返り復習と関連学習 (20-60 分)
4	Active Book Dialogue の手法で本を読み、理解を共有し、議論する。	前回の振り返り復習と関連学習 (20-60 分)
5	振り返りシェアリング	前回の振り返り復習と関連学習 (20-60 分)
6	Active Book Dialogue の手法で本を読み、理解を共有し、議論する。	
7	Active Book Dialogue の手法で本を読み、理解を共有し、議論する。	前回の振り返り復習と関連学習 (20-60 分)
8	Active Book Dialogue の手法で本を読み、理解を共有し、議論する。	前回の振り返り復習と関連学習 (20-60 分)
9	振り返りシェアリング	前回の振り返り復習と関連学習 (20-60 分)
10	Active Book Dialogue の手法で本を読み、理解を共有し、議論する。	
11	Active Book Dialogue の手法で本を読み、理解を共有し、議論する。	前回の振り返り復習と関連学習 (20-60 分)
12	Active Book Dialogue の手法で本を読み、理解を共有し、議論する。	前回の振り返り復習と関連学習 (20-60 分)
13	振り返りシェアリング	前回の振り返り復習と関連学習 (20-60 分)
14	これまでの議論のマッピング	
15	前回のマッピングを踏まえた議論	

- ・ 3 年時演習と一体的に授業運営を行う。
- ・ 受講者と相談のうえ、授業計画を変更する可能性がある。
- ・ ビデオを視聴する、講義や報告、議論などを聞く、報告や議論などで話す、また段差がありまた一定の化学物質が空気中に揮発している教室などでそれらを行う可能性があります。合理的配慮が可能な場合もありますので、必要な場合、学部・研究科事務室にご相談下さい。

<成績評価基準/Evaluation Criteria >

平常点(出席, クラス参加, グループ作業の成果等) 40%

授業で議論したい論点などの事前準備, および授業への参加が評価のポイントです。やむを得ない欠席などの場合は、話し合いの上, 他の形での追加評価を検討します。

クラスで発表など 30%

随時発表の機会があります。その機会に積極的に発表を行うかどうか評価のポイントになります。

クラスへの貢献度 30%

論点の提出, 議論のファシリテーション, 事後に調べたことの共有など, 随時, 貢献の機会があり, それらを積極的に行うかが評価のポイントとなります。

<参考文献/Reference Book >

小河原誠『読み書きの技法』(ちくま新書, 1996)